

口腔外科卒直後研修プログラム 2020年度

(2019年 3月 26日)

研修プログラムの概要:

一般目標

(社)日本口腔外科学会の専門医制度に従い、口腔外科認定医を取得(入会后3年以上)するに相応した倫理的態度を身につけるとともに、口腔外科に関する専門的知識ならびに基本的な口腔外科手術を執刀できる技能を身に付ける。

行動目標

- ①(社)日本口腔外科学会および関連学会に人会する。
- ②日本口腔外科学会学術総会、地方会および関連学会に参加し筆頭者として発表する。
- ③日本口腔外科学会が主催する教育研修会あるいはリフレッシュセミナーに参加する。
- ④日本口腔外科学会が定める救命救急の研修会に参加する。
- ⑤口腔外科に関連する症例検討会に参加する。
- ⑥指導医の指導のもとに、口腔外科的疾患の検査、診断を行う。
- ⑦指導医とともに基礎疾患を有する患者および入院患者を担当する。
- ⑧病棟における当日直(初年度12月以降)を行い、入院管理および周術期管理を行う。
- ⑨指導医のもとに口腔外科手術の助手および手術執刀(分担執刀を含む)を行う。
- ⑩口腔外科に関する講義、講演、抄読会、勉強会、研究会に参加する。

達成項目)

- 下顎埋伏智歯の技術の習得
- 口腔外科小手術の技術の習得
- 静脈路確保の技術を習得
- 臨床検査の実施
- 中央手術室症例に助手として参加
- 日本口外科学会総会もしくは地方会の参加
- 日本口外科学会総会もしくは地方会の筆頭演者として発表
- BLS、もしくはICLS受講
- 歯科臨床医リフレッシュセミナー受講(口腔外科学会地方会時に開催)
- 症例検討会での症例供覧
- 口腔外科臨床実習にアシスタントとして参加

*指導医について:口腔外科監督責任者を当て、研修の進捗状況は毎月の会議で確認し、翌月の研修に反映させる。研修1年目は指導医の監督下に全ての診療業務を行う。

テキスト・教材・参考書

- 1) SIMPLE TEXT 口腔外科の疾患と治療 第4版 栗田 賢一 編集代表 永末書店
- 2) 口腔外科学:白砂兼光・古郷幹彦編, 医歯薬出版, 第3 版
- 3) サクシント口腔外科学:内山健志 他, 学建書院, 第3版
- 4) 標準口腔外科学:野間弘康 他, 医学書院, 第4版
- 5) (社)日本口腔外科学会雑誌
- 6) Journal of Oral&Maxillofacial Surgery, Medicine, and Pathology

取得可能な認定医・専門医資格:(社)口腔外科学会認定口腔外科認定医

月日	研修目的	研修内容	具体的な研修ノルマ	備考
4月	外来診療の流れを理解する	初診・外来業務		
		臨床検査介助		
		外来手術介助		
		指導医直接介助下の局所麻酔施行（伝達麻酔、浸潤麻酔）、		
		手術室症例の第2助手		
5～7月	外来診療に参加する	外来手術介助		
		採血、静脈路確保（事前にシュミレーションさせておくこと）		
		簡単な観血的処置を施行（習熟度により）		
		関連学会参加		
		普通抜歯施行		
7～9月	外来診療（手術）を実施する	外来処置を中心に研修		
		埋伏智歯抜歯手術を分担執刀（縫合→切開・剥離→骨削除→歯冠分割、抜歯）		
		臨床検査施行（予約、オーダー、実施）		

月日	研修目的	研修内容	具体的な研修ノルマ	備考
9～10月	外来手術を実施する 病棟業務を理解する	分担執刀の範囲を拡大（術者、助手を繰り返す）		
		技量に応じて抜歯完走		
		病棟業務に参加		
		口腔外科臨床実習にアシスタントとして参加		

11月	病棟業務を実施する 口腔外科学会に参加する	見習い当直開始		
		症例検討会での症例供覧		
		口腔外科学会学術大会参加		
		小手術関連のハンズオンコース、研修会の受講を促す		
12月	智歯抜歯を習得する	見習い当直継続		
		埋伏智歯抜歯の完走（指導医の監督下）		
		レベル I の中央手術室症例を執刀		
1～3月	当直業務を実施する 外来、手術室、病棟業務を実施する	当直ローテーション入り		
		これまでの研修内容を総括		

月日	研修目的	研修内容	具体的な研修ノルマ	備考
2年目～		学会筆頭演者として発表		
		下顎智歯抜歯は独り立ち		
		口腔外科認定医取得条件を充足するよう研修を継続		
3年目～		口腔外科認定医取得準備の年とする		
		救急救命研修(週1回、半年～1年) 日本医科大学武蔵小杉病院救急救命センターにて歯科医師救急救命ガイドラインに沿って研修を行う		